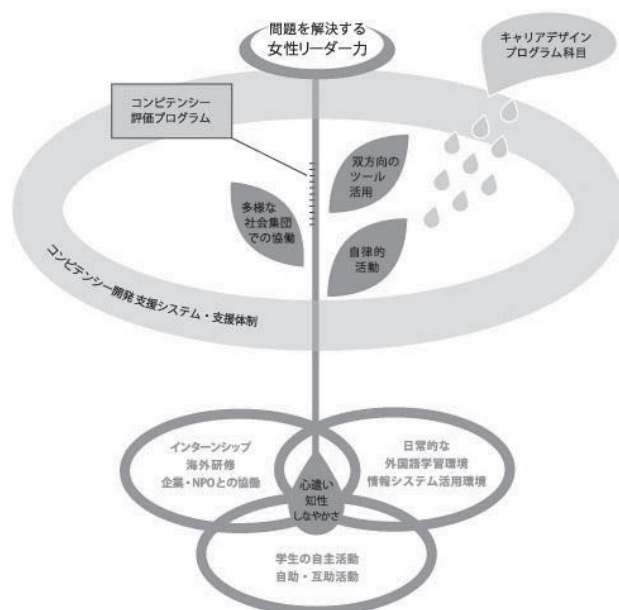


### 第3章 キャリア関連科目受講状況と キャリア形成・キャリア支援との関連

本章では、本学の学生（本調査の回答者）のキャリアデザインプログラム基幹科目群の受講状況を学年、学部、学科の別に分析、キャリア関連授業が本学においてどのような形で浸透しているかについて捉える。また、受講状況と学生のキャリア形成の関連について分析することで、今後の授業運営を効果的に行うための示唆を得ることを目的とする。

#### (1) キャリア関連科目とは

本学は平成22年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に選定され、「女性リーダー



のためのコンピテンシー開発」という名のもと、女性の地位の向上をはじめとする社会的課題の解決に貢献する高度な就業力を育成するための取り組みを行っている。コンピテンシーとは多様な学士力養成のなかで習得される諸能力を必要に応じて組み合わせることによって問題を解決する力であり、本学ではその諸能力を「心遣い・知性・しなやかさ」という思考・行動特性を核にして捉え、そこから芽生える「双方向のツール活用」「自律的活動」「多様な社会集団での協働」という3分野のコンピテンシーを状況に応じて組み合わせながら問題に取り組む力であるとしている。

本事業は、「キャリアデザインプログラム」と呼ばれ、授業を通したコンピテンシー育成と、評価プログラム（ポートフォリオシステム）を使用した学生の学修を通してのコンピテンシー育成の2つに主軸を置いた取り組みが展開されている。

| 科目名                          |
|------------------------------|
| お茶の水女子大学論                    |
| 女性リーダーへの道(入門編)               |
| 女性リーダーへの道(ロールモデル入門編)         |
| 女性リーダーへの道(実践入門編)             |
| 情報コミュニケーション技術と創発性            |
| キャリアプランニングⅠ(キャリアプランとライフプランⅠ) |
| キャリアプランニングⅡ(キャリアプランとライフプランⅡ) |
| ことばと世界12 知能環境論               |
| キャリアプランニング実習                 |
| インターンシップ                     |

＜授業を根幹とするコンピテンシー育成＞

授業を通してのコンピテンシー育成は、キャリアデザインプログラム「基幹科目群」（新規開講）と「関連科目群」（全学の既存科目からコンピテンシーを養成する科目を選んだもの：2012年度より構成されることを予定）を中心に行われる。本年度、基幹科目については左図の10科目が開講されている。これらの授業は女性のキャリアプランやライフプランを考える、あるいは企業

からゲストを招き実際の課題制作を行うといった構成の授業を展開しており、また、インターンシップなども含まれており、学生が大学生活の多様な側面においてキャリアについて幅広い見地から捉え考えることが出来るよう工夫されている。学生は、これらの「基幹科目群」から8単位、「関連科目群」から12単位の合計20単位を履修し、また、評価プログラムに参加することによってプログラムを修了することができる。また、これら一連の科目群の本年度の履修者は496人（延べ人数：2011年1月現在）であり、在籍学生2,019人中（2011年5月1日調べ）約1/4を占めている。履修者は1年生が232人と最も多く、続いて2年生が121人、3年生が78人、4年生が64人となっている（2011年度キャリア支援

センター調べ)。

#### ＜評価プログラムを通したコンピテンシー育成＞

評価プログラムとは、学生がウェブ上で自らのキャリア関連授業の履修プロセスを見ることができるだけでなく、学生自身が客観的基準でその力を測り自律的に向上するための仕組みである。学生が自分の現在の状態を分析、記録していくことで大学生生活4年間での自己の変化についてより分かりやすく理解し、次に必要なステップを自らが決めていくことを目的としており、2012年度に運用を開始する予定である。

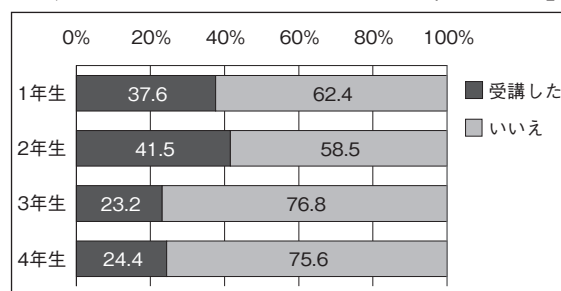
## (2)キャリア関連科目の受講状況

では、以上のような目的に基づいて作られたキャリアデザインプログラム基幹科目が現在本学においてどのように受容されているのか。本章ではこれら科目の受講状況、受講率、受講授業の内訳について学年、学部別の別に着目して概観していく。

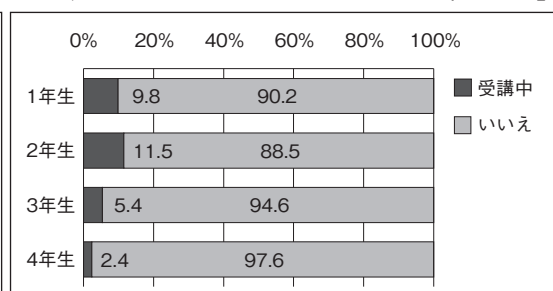
### 1) キャリアデザインプログラム基幹科目の学年別受講状況

まず、キャリアデザインプログラム基幹科目群（新規開講科目を含む）の受講者の属性について分類する。図表3-1、3-2は、これらの授業について「受講した」あるいは「受講中」であるという回答を学年別に表示したものである。

図表3-1 学年別基幹科目受講状況「受講した」



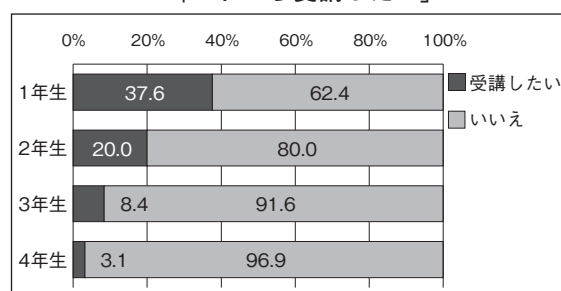
図表3-2 学年別基幹科目受講状況「受講中」



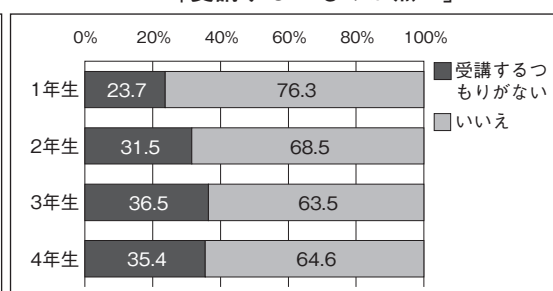
これまでに何らかのキャリア関連授業を「受講した」と回答したのは、2年生が最も多く（41.5%）、次いで1年生37.6%、4年生24.4%という結果となっている。最も少ないのは3年生であるが、それでも23.2%が「受講した」と回答している。現在「受講中である」と答えた学生は各学年ともに少ないが、「受講した」と同じく、受講中であると最も多く回答しているのは2年生である。

続いて、今後の受講希望者と受講するつもりがないと回答した学生について、学年別に分類した結果を図表3-3と図表3-4で示す。

図表3-3 学年別基幹科目受講状況  
「これから受講したい」

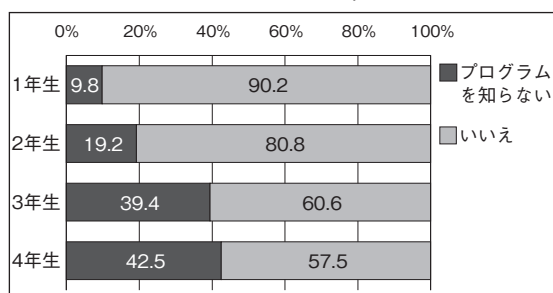


図表3-4 学年別基幹科目受講状況  
「受講するつもりが無い」



今後の受講希望については、1年生が最も多く37.6%、2年生が20.0%という結果となった。2年生は、学部生中受講経験、また現在受講中の学生が最も多かったが、「これから受講したい」という意見が「受講した」に比べ少ない結果となっている。また、受講意志がないと答えた回答者について、学年別に分類したものを図表3-5で示す。第1章第3節4) キャリア関連の授業の受講率（図表1-46）によると、31.8%がキャリア関連の授業を「受講するつもりがない」と答えているが、それはどのような内訳になっているのだろうか。結果は、1年生が最も少なく23.7%、2年生31.5%、3年生が最も高く36.5%、4年生では35.4%であった。

図表3-5 学年別基幹科目受講状況「プログラムを知らない」



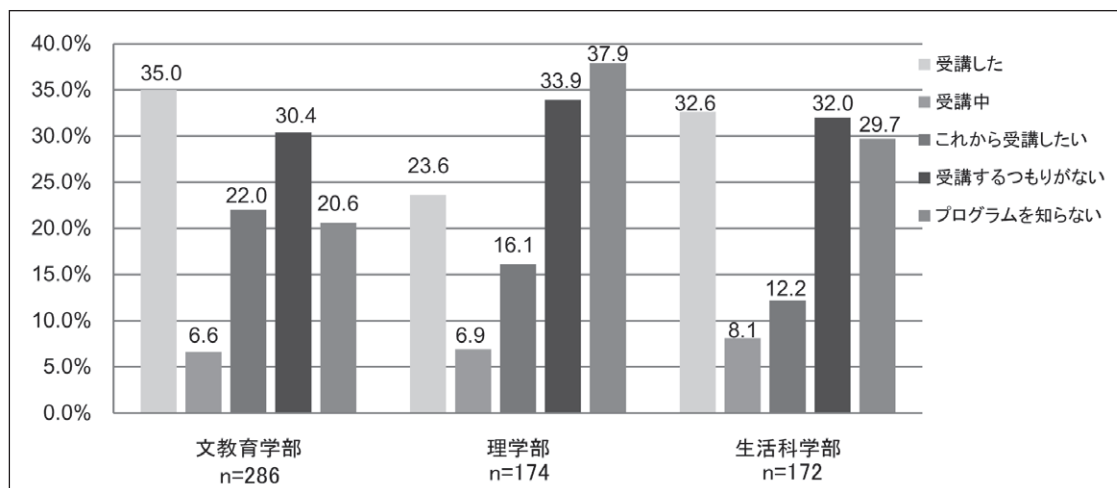
上記の図表3-5は、今回の調査において「プログラムを知らない」と答えた27.8%（ $n=633$ ）を学年別に分類したものである。学年が上がるごとに認知度が下がるという結果となっており、3年生・4年生ではほぼ4割がプログラムを知らないと回答している。

キャリアデザインプログラム基幹科目は、「お茶の水女子大学論」や「インターンシップ」のように以前から開講されていた科目も含まれているものの、実際の運用については本年度（2011年度）から開始されており、新規科目も本年度開講のものが多い。そのため、3年生、4年生の認知度が低かったのだらうということが考えられる。対して1年生で「プログラムを知らない」は学年全体の1割以下である。これは、2011年4月の入学時のオリエンテーションにおいて、プログラムの説明があったためでないかということが考えられる。入学後の出来るだけ早い時期にプログラムの周知を進めることが今後の認知度の向上につながると考えることができるのではないだろうか。

## 2) キャリアデザインプログラム基幹科目の学部・学年別受講状況

学年別の分析では、学年と認知度が反比例する結果となったが、学部ごとの受講状況はどのようなになっているのだろうか。結果を図表3-6に示す。

図表3-6 学部別受講状況（複数回答）

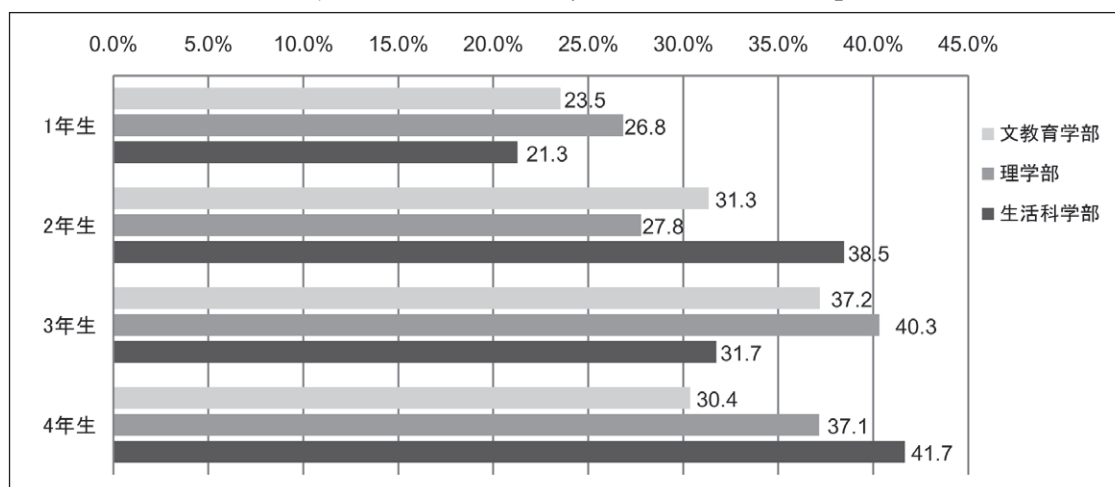


「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」ともに最も値が高かったのは理学部で、同時に「受講した」が23.6%と他学部より低い結果となっている。しかし、今後の受講意志については16.1%であり、文教育学部の22%より低いものの生活科学部の12.2%より高い。

「受講した」は文教育学部が35.0%、生活科学部が32.6%と、いずれも3割以上がこれまでにキャリア関連授業を受講したことがあると答えている。しかし、全ての学部に通して3割以上が受講するつもりがないと回答している。「受講するつもりがない」は学年別でみると差が見られたが、学部別に目立つ違いがみられない結果となった。

次の図表3-7では受講意志がないと回答した学部生を学部・学年別に分類した結果を示す。

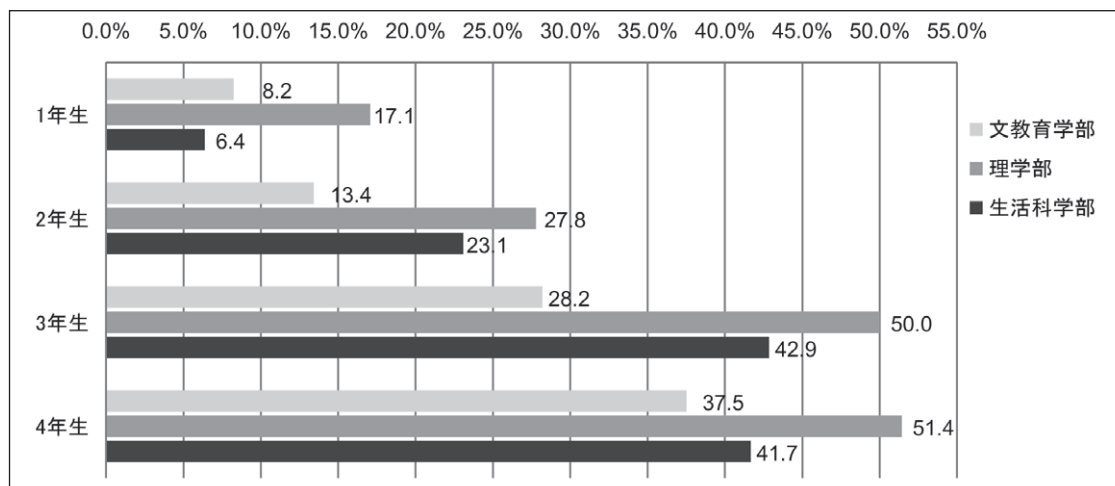
図表3-7 学部・学年別「受講するつもりがない」



文教育学部は、1年生が23.5%と比較的低いものの2年生から4年生については30%以上が受講しないと回答しており、中でも3年生の37.2%が最も高い数値となっている。理学部においてプログラムの認知度は1年生で高い結果となっているものの（図表3-8参照）、26.8%が受講しないと回答しており、3年生では40.3%と理学部において最も高い結果となった。生活科学部は1年生で21.3%と学部・学年別分類の中で最も低い値となっているものの、2年生では38.5%、3年生31.7%、4年生41.7%であり、他学部より高い割合で受講意志がない、という結果となる。

次に「プログラムを知らない」という回答について、学部学年別に分類したものを図表3-8で示す。

図表3-8 「プログラムを知らない」



第1章：図表1-46で示されているように、本調査では27.8%が「プログラムを知らない」と回答している。更に、その中でも理学部では全ての学年を通して、他学部よりのプログラムの認知度が低いことがわかる。特に理学部の3年生、4年生については半数が「知らない」と回答しており、今後のキャリアデザインプログラムの全学普及に際して理学部への対応が急務となるのではないかとということが伺える。対して文教育学部は、3学部の中でも「知らない」が学年別に見ても少なく、1年生で8.2%、2年生では13.4%、3年生が28.2%、4年生では37.5%であり、1年生を除いて最も低い結果となっている。また生活科学部では1年生の6.4%が学部・学年を通して最も低い値であるのにも関わらず2年生

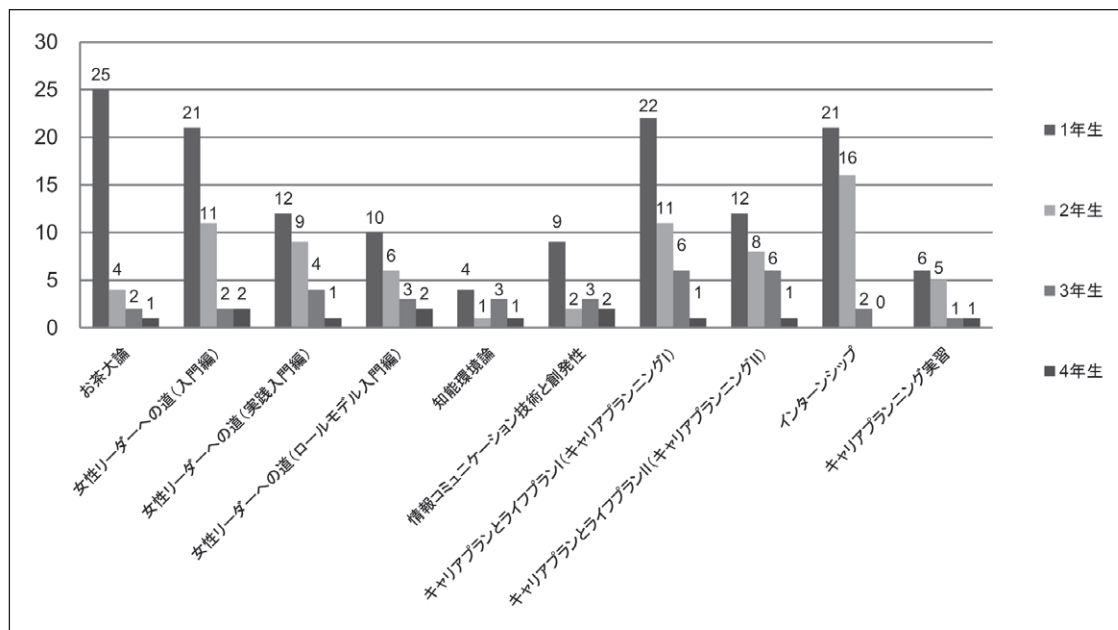


では23.1%が、また3年生、4年生では40%以上が知らないという結果となっている。

### 3) 学生が受講したい授業とは

図表3-9では、今後どのようなキャリアデザインプログラム基幹科目を受講したいかについて、複数回答可でたずねた結果を学年別で分類している。

図表3-9 学年別これから受講したい授業（度数）（複数回答）



これから受講したいと答えた学生が最も多かった授業は「キャリアプランとライフプランⅠ（キャリアプランニングⅠ）」の40人、続いて「インターンシップ」の39人であった。その他、30人以上の学生が「受講したい」と答えた授業は、「女性リーダーへの道（入門編）」（36人）と「お茶の水女子大学論」（32人）であった。お茶の水女子大学論の受講希望者のほぼ8割は1年生であり、また、全ての科目において1年生の希望が最も多い。また、「女性リーダーへの道」は入門編の受講希望者が最も多かったが、実践入門編には26人、ロールモデル入門編には21人の希望者がおり、また、全ての学年に受講希望者がいる。

今回の調査において「インターンシップ」の受講希望者が39人と多く、またそのほとんどが1年生と2年生であった。しかし、実際の履修者を見ると、本年度の履修は13人、また、そのほとんどは3年生である（2011年12月現在）。インターンシップに関しては受講希望が実際の履修につながるかという点が、今後の課題になるのではないだろうか。また、受講希望者が最も多かった「キャリアプランとライフプランⅠ（キャリアプランニングⅠ）」であるが、「キャリアプランとライフプランⅡ（キャリアプランニングⅡ）」の受講希望者と合わせると、有効回答数112の内半数以上の学生が受講したいと考えているということが分かった。これらの科目は「お茶の水女子大学論」のような大講義と性質を異にする少数運営のクラスであり、履修可能な学生数に限りがあるため、受講希望者と履修数のバランスをとることが今後必要とされるのではないかと思われる。

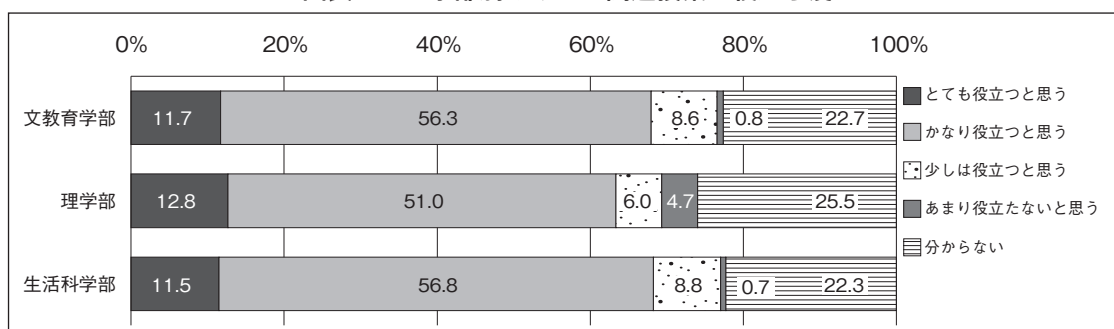
### (3)キャリア関連科目の役立ち度について

本節ではキャリアデザインプログラム基幹科目受講状況と、学生がこれらの授業のキャリア形成への有効性についてどのように考えているかについての考察を進める。

#### 1) キャリアデザインプログラム基幹科目の学部・学年別「役立ち度」

学部生対象に本学のキャリア関連の授業が今後のキャリア形成の役に立つかについて、「とても役立つと思う」「かなり役立つと思う」「少しは役立つと思う」「あまり役立たないと思う」「分からない」の5肢択一での回答を学部別に分類する（図表3-10）。

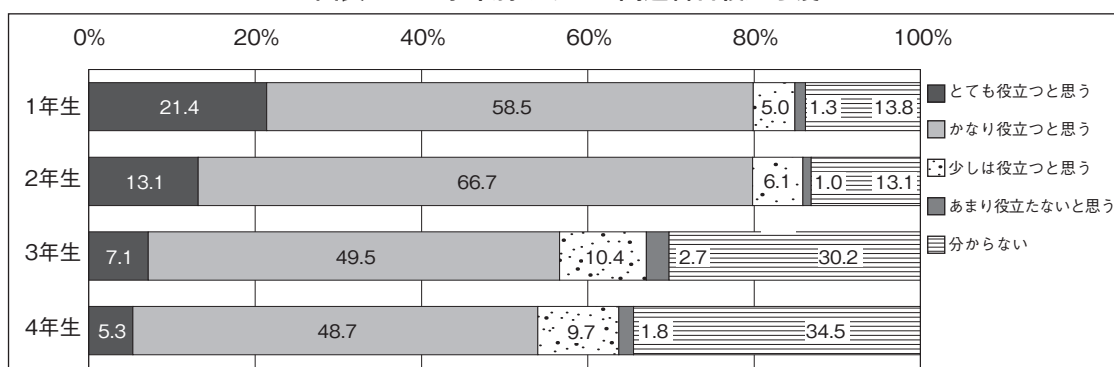
図表3-10 学部別キャリア関連授業の役立ち度



各学部ともに、「とても役立つ」と「かなり役立つ」との回答が全体の6割以上を占める結果となっている。次に、「少しは役立つと思う」は文教育学部で8.6%、理学部で6.0%、生活科学部では8.8%であった。対して、「あまり役立たないと思う」は文教育学部、生活科学部ではそれぞれ0.8%、0.7%と1%以下だったが、理学部は4.7%と比較的高い値となっている。また、「分からない」については文教育学部、生活科学部が22%台なのに対して、理学部は25.5%となっている。理学部ではプログラムの認知度も低いが、同時に他学部 비해キャリア関連プログラムを有効だと思っていないということがうかがえる。ただし、これらの結果は回答全体の結果と一致している（第1章：図表1-49）。

続いてキャリアデザインプログラム基幹科目群の役立ち度について学年別に分類したものを図表3-11で示す。学年別に概観すると、認知度と同じく学年が下がるのと反比例して役立ち度が上がるという結果となっている。まず、「とても役に立つと思う」であるが、1年生の21.4%に対して、4年生は5.3%であった。また、1年生、2年生においては、「とても役に立つ」「かなり役に立つ」の回答が学年全体のほぼ8割を占めているが、3年生、4年生では50%台にとどまっている。同様に3年生と4年生では(役立ち度が)「分からない」との回答も30%以上という結果となった。

図表3-11 学年別キャリア関連科目役立ち度

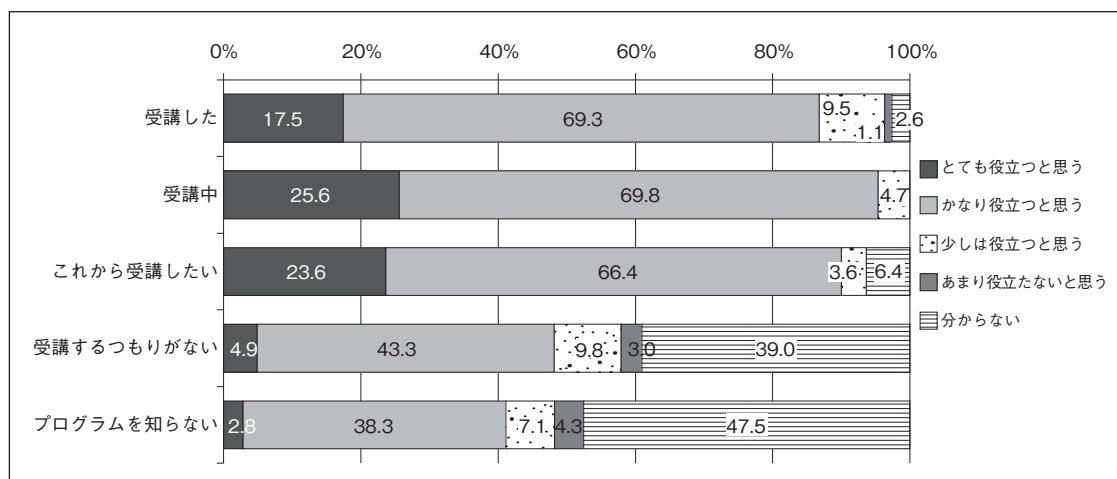


学年とプログラムの認知度が反比例することからも、学年が上がるにつれキャリア関連授業の役立ち度について分らないという回答が増えるのは十分考えられるため、今後、キャリアデザインプログラムについて知っている学生の学年が上がっていけば、役立ち度についての評価は変化するのではないかとということが予測される。

## 2) キャリアデザインプログラム基幹科目受講状況と役立ち度

では、キャリア関連授業の受講状況と学生の授業の役立ち度についての捉え方はどのように関連しているのだろうか。

図表3-12 受講状況 × キャリア関連授業の役立ち度



図表3-12は受講状況と役立ち度を分類した結果を示している。受講したと回答した学生の内、「とても役に立つと思う」は17.5%、「かなり役に立つと思う」は69.3%を占め、また「少しは役に立つと思う」は9.5%という結果となった。つまり、受講経験のある学生の内、95%以上がキャリア関連授業について程度の違いはあれ役に立つと思っており、対して「役に立たないと思う」は1%程にとどまっている。また、役立ち度が「分からない」も2.6%と低い。現在受講中であると回答した学生については更にはっきりとした傾向があり、「あまり役に立たないと思う」「分からない」が共に0%という結果となった。受講中の学生は受講の意義を感じているのである。今後の受講を考えている学生のうち、9割はキャリア関連授業が役に立つと考えているようである。同様に「受講するつもりがない」においても、「とても役に立つ」「かなり役に立つ」「少しは役に立つ」を合わせると6割ほどになる結果となった。

また、受講するつもりがなく、「あまり役に立たない」と回答した学生は3%であり、プログラムを知らず「あまり役に立たない」の4.3%よりも低い。対して受講するつもりがなく、キャリア関連授業の役立ち度についても「分からない」は39%で、受講の意志のない学生でもその理由は積極的にキャリア関連授業を無価値なものと否定しているのではなく、どのように役に立つのかよく分からないと思っているということが言えるだろう。

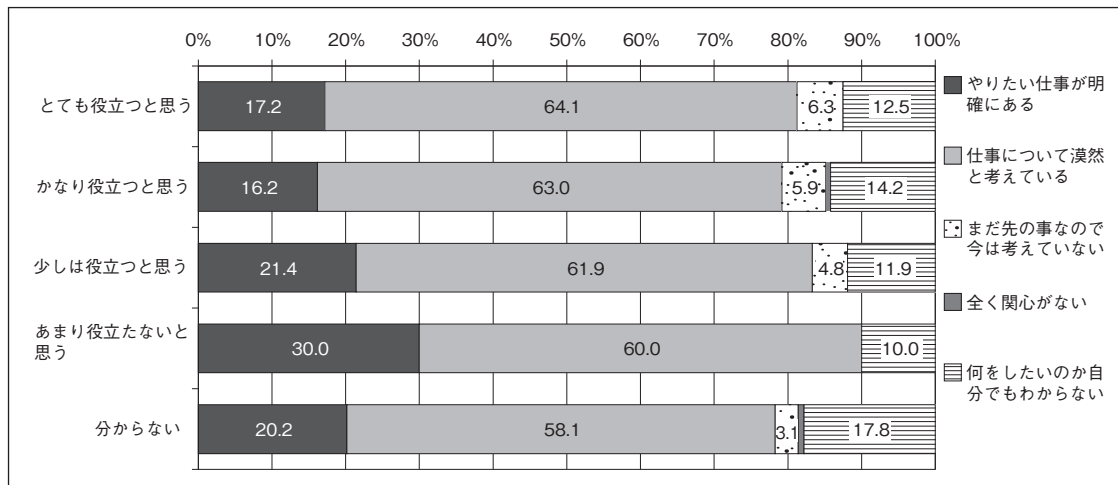
「分からない」が最も多かったのは「プログラムを知らない」の47.5%であった。このカテゴリーでは、「あまり役に立たない」の値も4.3%と他と比べて高い結果となっている。この点から見ても、プログラムの認知度を上げ、受講者が増えることで、プログラムの有効性についても学生の間で確認されることとなるのではないかと考えられる。

## 3) キャリアデザインプログラム基幹科目の「役立ち度」とキャリア意識

図表3-13はキャリア関連授業の役立ち度を学生の将来のキャリアについての分類別に示している。



図表3-13 キャリア関連授業の役立ち度 × キャリア意識



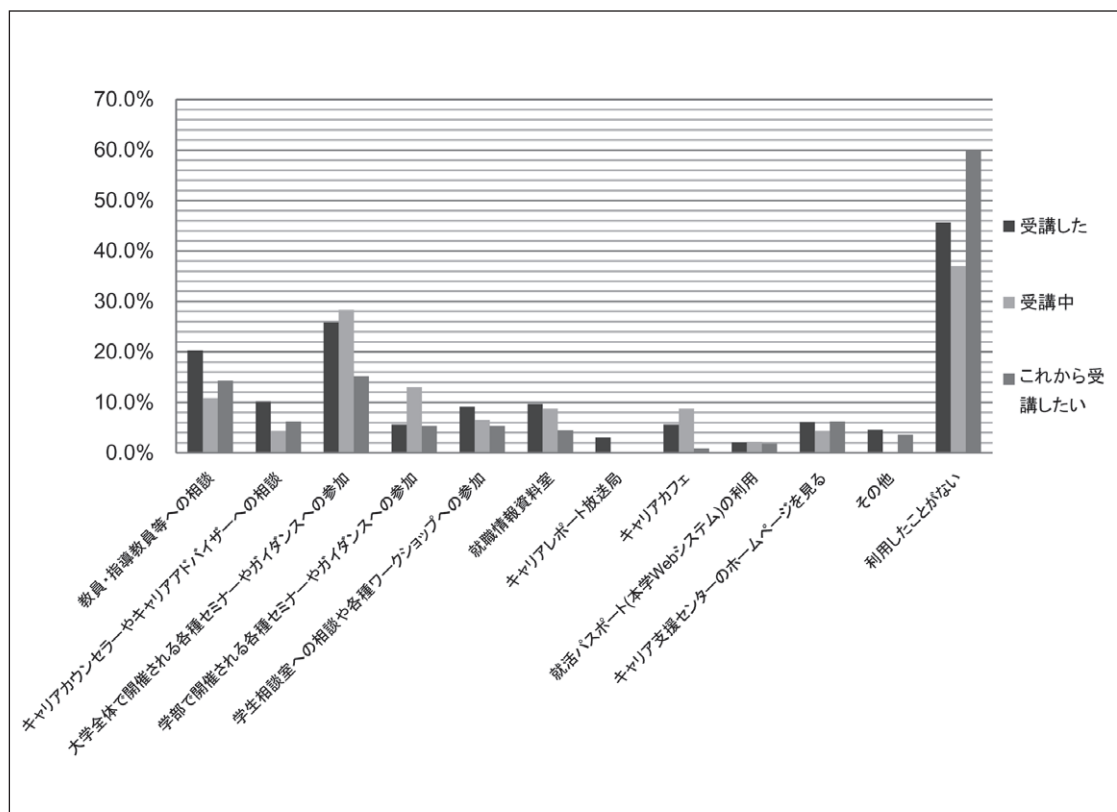
役立ち度の感じ方にかかわらず、「仕事について漠然と考えている」が最も多くを占めている（58%～64%）。その中で「やりたい仕事がある」が最も高かったのは「あまり役立たないと思う」では30%という結果となっており、「仕事について漠然と考えている」と合わせると9割を占めている。また、「あまり役立たないと思う」では、「先の事なので今は考えていない」が0%、「何をしたいかが自分でもわからない」が10%と最も少ない。「役に立たない」との回答は全体の1.8%と大変少ない（第1章：図表1-49参照）が、自分の将来について明確な希望を持っている学生に対しては授業のアピール度が低いのかかもしれないということが考えられる。

#### (4) キャリア関連科目の受講とキャリア支援の利用について

次にキャリア関連授業の受講状況と本学のキャリア支援の利用について概観する。

図表3-14はキャリア関連授業を「受講した」「受講中」「これから受講したい」をこれまで利用したキャリア支援の別に分類したものである。

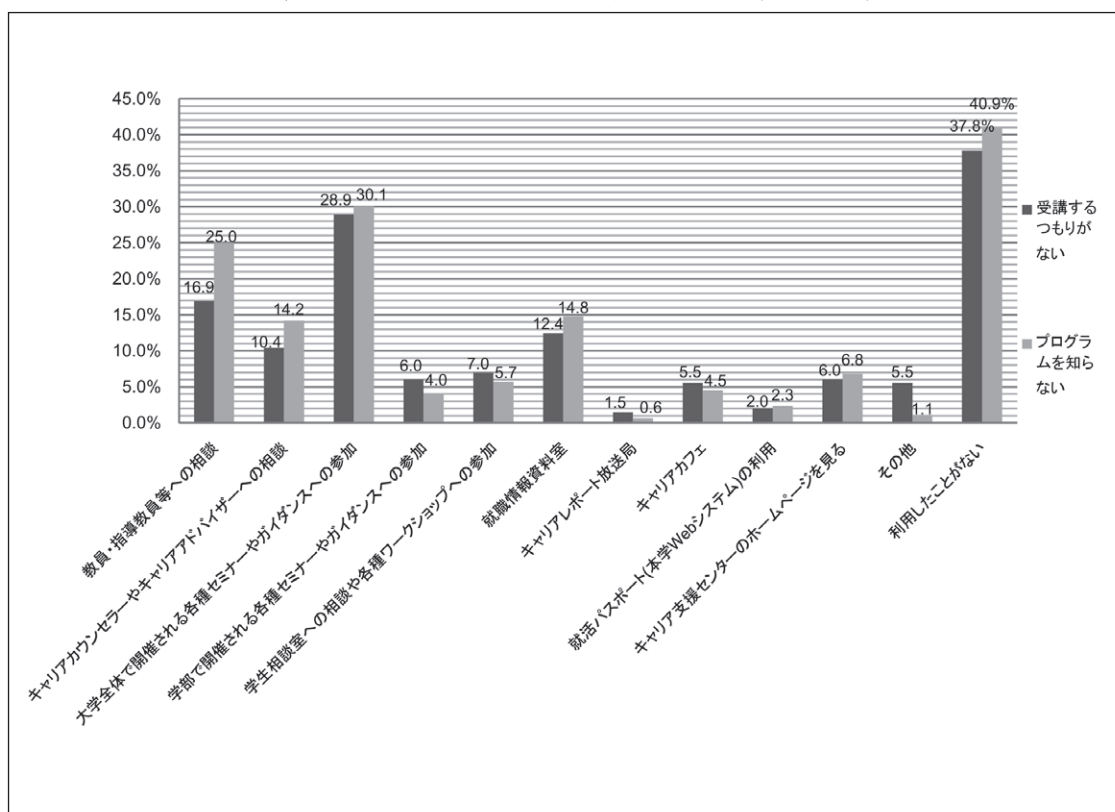
図表3-14 受講状況とキャリア支援の利用(1) (複数回答)



キャリア関連授業受講者・受講希望者の本学のキャリア支援の使用では「利用したことがない」が最も高く「受講した」45.7%、「受講中」37%、「これから受講したい」59.8%という結果となった。続いて大学全体で開催されるセミナー等への参加、続いて教員・指導教員への相談という順になっており、全学の結果と同じであることが分かる（第1章：図表1-43参照）。

続いて「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」をキャリア支援の使用という観点から分類する（図表3-15）。

図表3-15 受講状況とキャリア支援の利用（複数回答）



「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」においても、本学のキャリア支援について利用したことがないとの回答がもっと多く（「受講するつもりがない」37.8%、「プログラムを知らない」40.9%）、続いて大学全体で開催されるセミナーなどへの参加、教員・指導教員への相談という順で選択されており、全学の結果と同じになっている。

また、上記の結果を概観するに当たり、キャリア関連授業の受講状況によって本学のキャリア支援の利用に積極的な変化がみられるということは現時点では言えないようである。

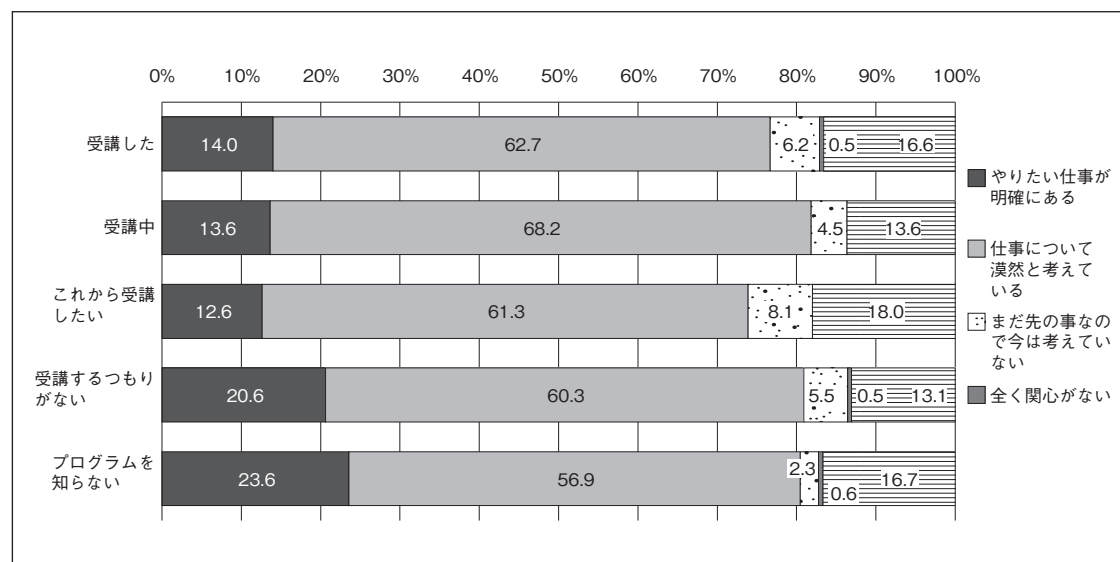
## (5) キャリア関連科目の受講状況とキャリア形成について

本節では、キャリア関連科目の受講と学生のキャリア意識形成について、キャリア意識、希望の進路、希望する就業形態との関連に着目し分析を進める。

### 1) キャリアデザインプログラム基幹科目の受講状況とキャリア意識

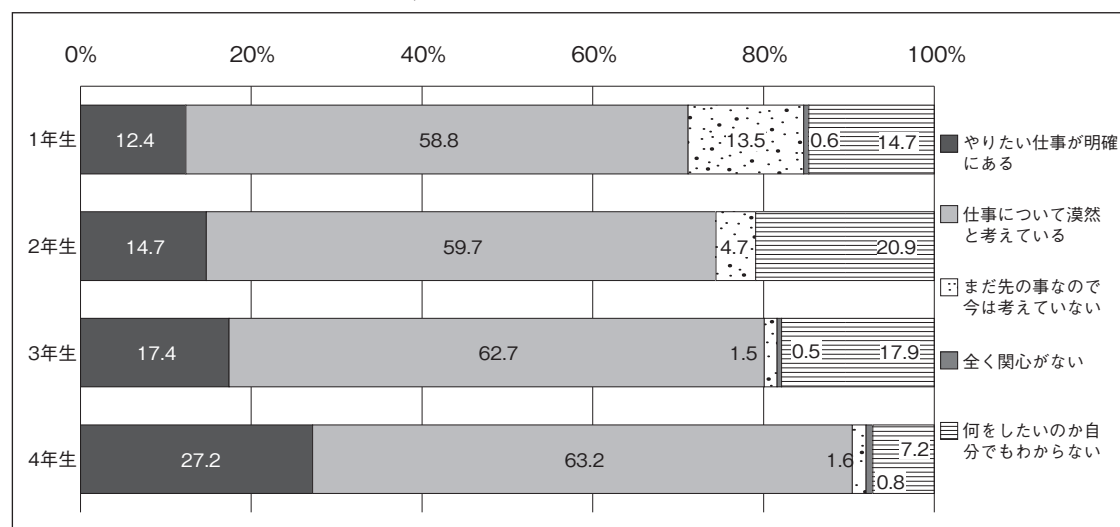
図表3-16はキャリア関連授業の受講状況と学生のキャリア意識（将来の職業についてどのように考えているか）の関連を示したものである。

図表3-16 キャリア関連科目受講状況 × キャリア意識



受講状況にかかわらず、6割前後の回答者が「仕事について漠然と考えている」と答えている。また、やりたい仕事があるとの回答は、「受講した」14%、「受講中」13.6%、「これから受講したい」12.6%と12~13%台であるのに対し、「受講するつもりがない」で20.6%、「プログラムを知らない」では23.8%（受講した、受講中、これから受講したいと5~10%ほどの違いがみられる）という結果となっている。

図表3-17 キャリア意識 × 学年



図表3-17はキャリア意識について学年別に分類した表であるが、学年が上がるにつれ「やりたい仕事がある」「仕事について漠然と考えている」と回答する割合が多くなっていることが分かる。図表3-18において「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」に「やりたい仕事がある」「仕事について漠然と考えている」の割合が高かつ

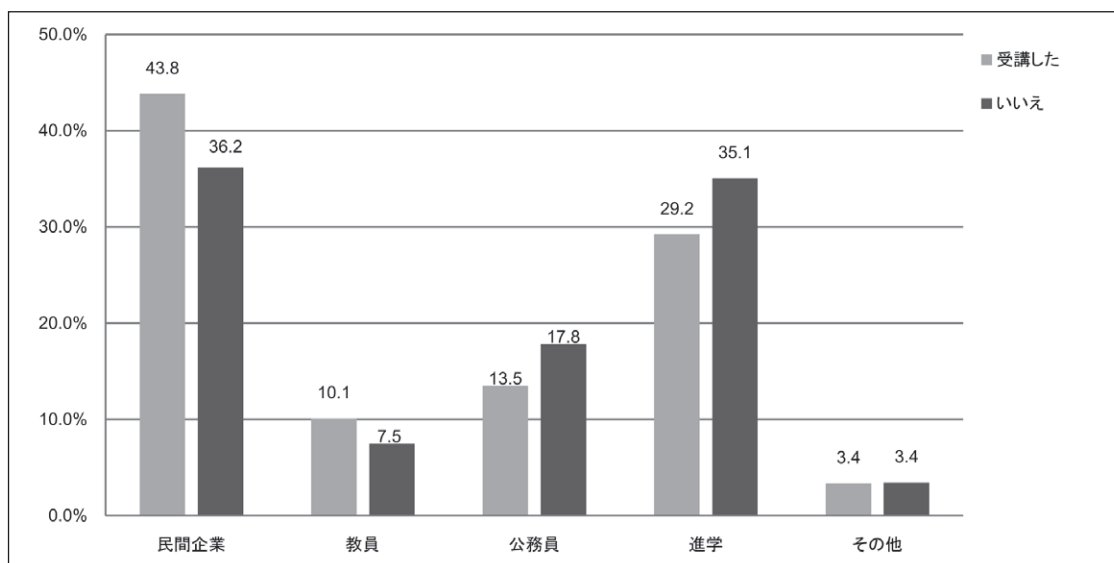
たのは、これらの回答に3年生、4年生が多く含まれているからだと思われる。

## 2) キャリアデザインプログラム基幹科目の受講状況と進路希望先

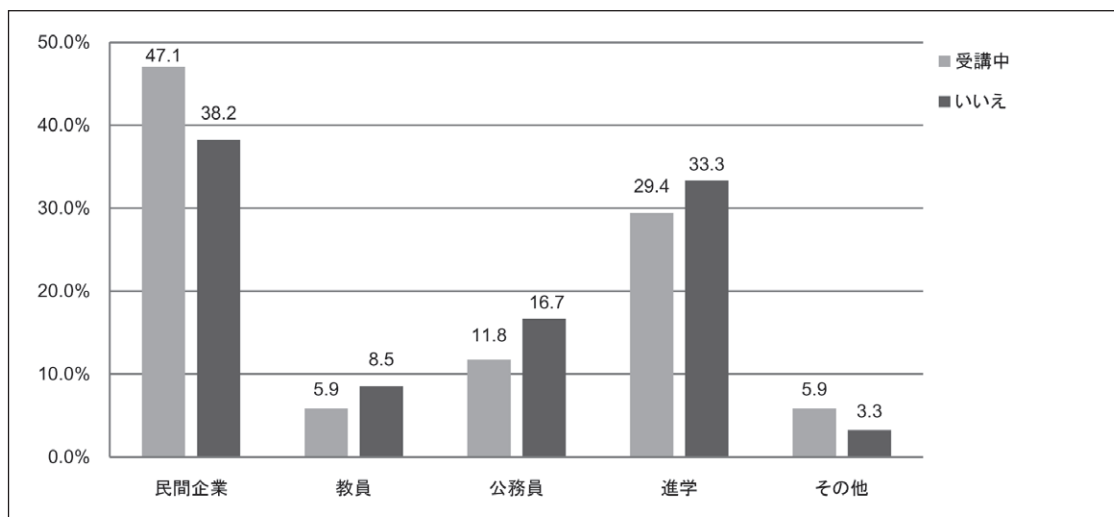
学生の進路選択状況について「一番希望している進路」をキャリア関連授業の受講状況別に分類したものを図表3-18、3-19、3-20、3-21、3-22で示す。進路希望先は、受講状況に関わらず民間企業が最も多かった。

まず、図表3-18と3-19では「受講した」「受講中」と最も希望する進路について分類した。「受講した」は民間企業希望が43.8%、進学が29.2%、公務員13.5%、教員10.1%、その他が3.4%という結果であり、「受講中」では民間企業が47.1%、進学29.4%、公務員11.8%、教員5.9%、その他が3.3%であった。結果として「受講した」「受講中」の進路希望先は酷似している。また「公務員」「進学」希望者には受講者が少ない結果となっている。

図表3-18 受講した × 最も希望する進路 \*無回答を除く



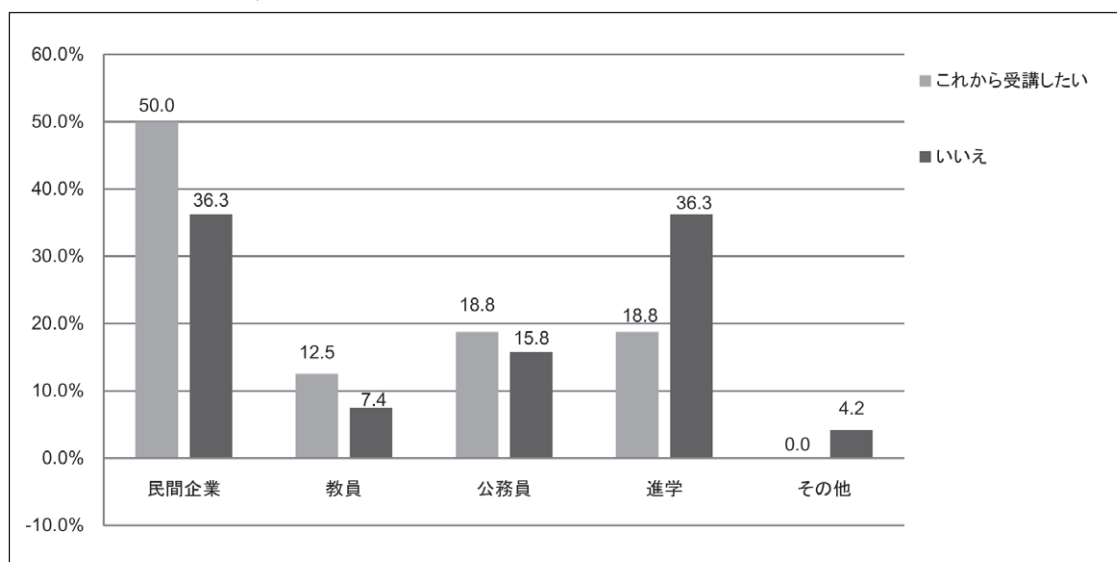
図表3-19 受講中 × 最も希望する進路 \*無回答を除く



図表3-20は、キャリア関連科目を今後受講したいと考えている学生の進路希望を示したものである。



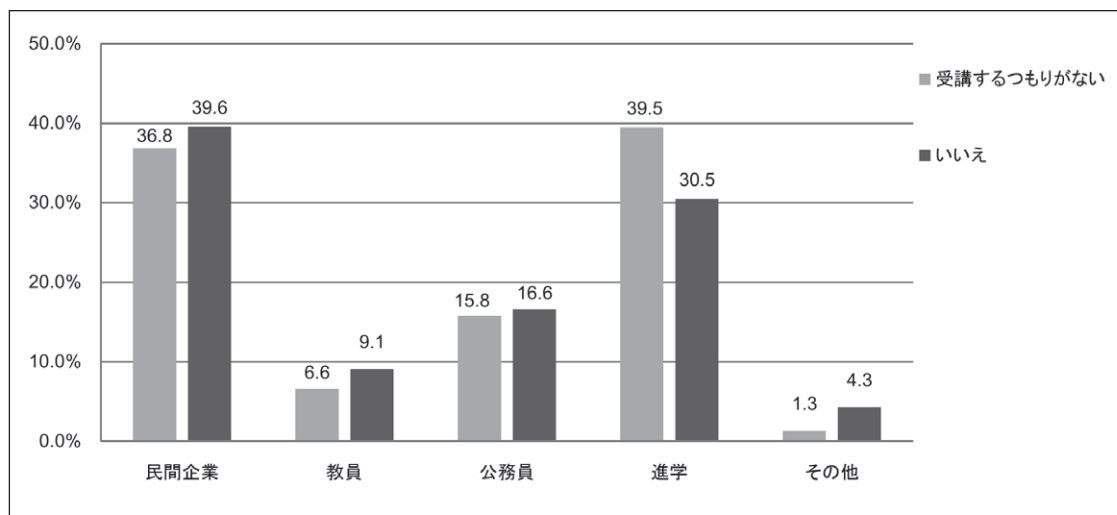
図表 3-20 受講したい × 最も希望する進路 \*無回答を除く



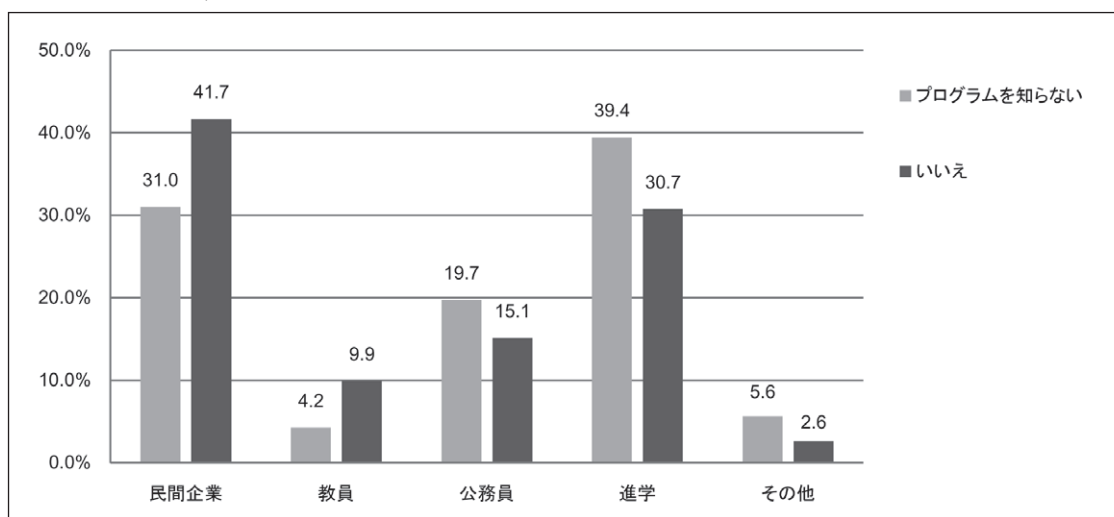
「これから受講したい」では公務員志望が18.8%、進学も18.8%と、民間企業に続いて高い値となっており、教員が12.5%という結果となった。また「その他」の希望が0%だった。

図表3-21、3-22では、キャリア関連科目を今後受講したい、あるいは受講するつもりがないと考えている学生の進路希望の分類を示す。まず、「受講したい」では民間企業就職希望者が50%と最も多く、進学希望者が18.8%と少ないのに対し、「受講するつもりがない」では進学希望者が最も多く39.5%、次いで民間企業が36.8%という結果となっている。

図表3-21 受講するつもりがない × 最も希望する進路 \*無回答を除く



図表3-22 プログラムを知らない × 最も希望する進路 \*無回答を除く



「プログラムを知らない」においても「受講するつもりがない」と同様に進学希望が39.4%と最も多く、次いで民間企業が31%、公務員が19.7%、教員が4.2%でその他が5.6%という結果となった。「プログラムを知らない」は理学部が最も多く（図表3-6参照）、また、理学部は特に進学希望者が多い（第1章：図表1-13参照）ことからこのような結果となったと考えられる。

「受講した」「受講中」「これから受講したい」に民間企業就職希望者が多く、「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」に進学希望者が多いという点から、学生にとってのキャリアデザインプログラム基幹科目群は、民間企業への就職と関連付けられており、コンピテンシーの育成が進学や公務員・教員等の進路を選ぶ際にも必要な能力であるという認識が学生にはあまり浸透していないのではないかと推察される。

### 3) キャリアデザインプログラム基幹科目の受講状況と希望する就業形態

図表3-23はキャリア関連授業の受講状況と民間企業への就職希望者の望む就業形態を表す。

図表3-23 受講状況と希望する就業形態



まず、「派遣・パート」の希望はどのカテゴリーにおいても0%という結果となった。最も多かったのが正規・総合職（企画や営業、管理業務など業務全般に従事する）への希望であり、「受講中」においては100%となっている。正規・一般職（事務や定型的な仕事、営業アシスタント的な職務）希望については「受講中」で5.2%、「受講したい」11.1%であるのに対し、「受講するつもりがない」では15.9%、「プログラムを知らない」では22%となっている。また、就業形態の希望がまだないという回答は「受講するつもりがない」で最も多く9.1%、続いて「受講した」で8.6%、「プログラムを知らない」で7.3%、「これ

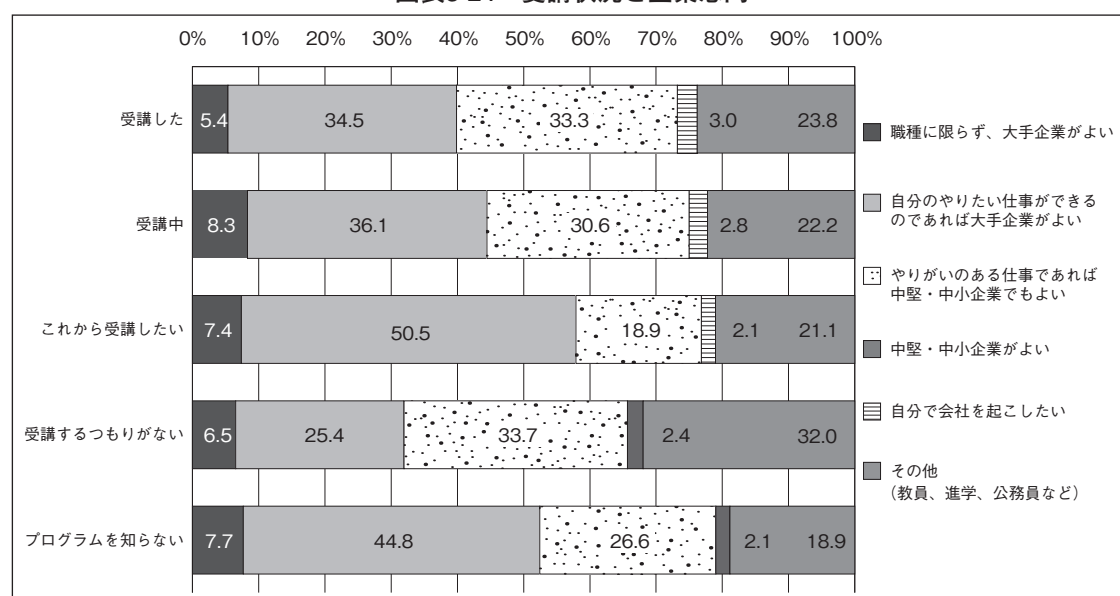
から受講したい」では2.8%であった。

キャリアデザインプログラム基幹科目群を受講した・している、あるいは受講したいと考えている学生の86%以上が正規・総合職を希望しているという結果は、学部生の総合結果である79.5%より僅かではあるが高い値となっている。正規・総合職希望が高いと同時に、キャリア関連授業受講者、受講希望者では、正規・一般職の希望が「受講した」5.2%、「受講中」0%、「受講したい」11.1%と学部全体の割合である13%を下回る結果となっている。(第1章：図表1-16参照)。また、希望する就業形態に関して未決定であるとの回答は、「受講した」「受講中」「これから受講したい」では約6%、「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」では約8%と受講状況の差による違いがあまりない。

#### 4) キャリアデザインプログラム基幹科目の受講状況と企業志向

図表3-24では、キャリア関連科目の受講状況と回答者の企業志向についてまとめている。

図表3-24 受講状況と企業志向



受講したかどうかに関わらず、全てのカテゴリーの5%~8%ほどが大手企業を希望していることが分かる。また、「やりたい仕事ができるのであれば大手企業が良い」は「受講した」「受講中」で34.5%、36.1%とほぼ変わらないが、「これから受講したい」では50.5%と高くなっている。また、「やりがいのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい」という回答は、「受講した」「受講中」「受講するつもりがない」では全体の1/3を占めているが、「これから受講したい」では18.9%と少なくなっている。

積極的に「中堅・中小企業が良い」という回答は「受講するつもりがない」(2.4%)、「プログラムを知らない」(2.1%)と極僅かしか見られず、受講経験・受講意志のある学生では0%という結果となっている。対して、起業したいという回答については、「受講した」で3%、「受講中」2.8%、「これから受講したい」2.1%となっており、「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」では0%という結果となっている。学部生全体で起業したいという回答は全体の1.1%と大変少ない中で、僅かであっても受講した・受講中の学生の内3%前後が起業したいと答えていることは興味深い。

また、「受講するつもりがない」では「その他」が32%と最も多い事からも(「その他」が学部生全体では24.2%となっている(第1章：図表1-17参照))、キャリア関連授業は学部生の間では民間企業就職と結びついており、その他の進路との結びつきが弱いということと推測される。

## (6)おわりに

本章では、キャリア関連科目の受講状況を概観し、キャリア意識や進路希望との関連について示してきた。その結果、本学でのキャリアデザインプログラムの認識度は学年が高くなるにつれ低くなり、受講とも同様の結果となることが分かった。また、学部別にみると理学部において「受講するつもりがない」「プログラムを知らない」という回答が他学部よりも多い結果となっているが、それは理学部が特に進路として進学希望が多いということと重なる。

受講経験者・受講希望者の進路希望などからも、進学や公務員などの希望進路選択とキャリアデザイン基幹科目との結びつきは、民間企業とのそれと薄いということが伺える。キャリアデザインプログラムにおいて育成されるべきコンピテンシーとは民間企業への就職のために必要な能力というよりも、あらゆる進路の可能性を含む「キャリア」を学生自らの力で切り開いていく力であり、一般的な「就活力」と定義を異とする。学生間にはこのコンセプト自体が未だ浸透しておらず、今後の課題とされるのではないかと考えられる。